

## 第 24 回: 批林批孔運動のナゾナゾ

中国改革開放の 30 年史を民間企業家たちの視点から描き、いま中国でベストセラーとなっている呉曉波氏の力作「激蕩三十年(=激動の 30 年)」は、当時中国科学院で働いていた若手研究者・柳伝志の回想から始まっている。1978 年 11 月のある日のこと、人民日報を広げると、そこに「如何にして牛を飼育するか」という記事が掲載されており、柳氏はその記事に強い衝撃を受けたという。

延々と 10 年も続いた破壊と混乱の文化大革命が、毛沢東主席の逝去に続く四人組の逮捕により漸く終結してまだ 2 年余り、当時人民日報といえば、階級闘争・革命貫徹といったイデオロギー絡みの記事ばかりであった。その頃は農民が自留地を活用する養鶏や野菜生産ですら「資本主義のシッポ」として厳しく批判された時代であり、そんな重苦しい雰囲気の中で、たかが「牛の飼育」とはいえ、経済活動に関する記事が共産党の機関紙に掲載されたことに対し、同氏は時代の潮目の変化を敏感に嗅ぎ取ったのである。彼の予感的中し、その記事から 20 日後に中国共産党は歴史的な第十一期中央委員会第三回全体会議(三中全会)を開き、鄧小平が指導する改革開放時代に船出する。

当時 34 歳だった柳伝志氏は後年起業し、同氏が創業した联想集団(レノボ)は、近年 IBM のパソコン部門を買収するなど業容を拡大し、いまや世界のレノボとして五大州に雄飛している。

歴史の知恵なのか、中国人は重要事項を決定するに当たっては熟慮に熟慮を重ねる。決定後もまずは隠密裡に行動し、リスクを回避するため露骨な表現は極力避ける。よく使われる手法が巧妙に意図を隠したナゾナゾのような観測気球の打ち上げである。これで周囲の反応を窺い、その結果を見た上でゴーサインを出し、あとは一気呵成に突進する。30 年前に人民日報に掲載された「牛の飼育記事」はその典型である。

文化大革命の狼煙は、毛沢東主席が姚文元(後の四人組の一人)という若手評論家に命じて上海文匯報に掲載させた「新編歴史劇『海瑞の免官』を評す」という論文であった。当時これが毛沢東の実権派に対する宣戦布告だと知っていたのは陰謀に加担した連中だけだった。気の毒だったのは、「海瑞の免官」の作者で後に自殺した呉晗(北京市副市長)である。彼は毛沢東の指示により、明朝時代の故事をベースに歴史劇を執筆したにもかかわらず、この作品が廬山会議で失脚した彭徳懐(元帥・元国防相)を擁護し、毛沢東を批判する意図で書かれた毒草だとイチャモンをつけられ肝をつぶした。毛沢東は呉晗の上司である彭真(北京市長)や更に上に君臨する劉少奇(国家主席)・鄧小平(党総書記)を攻撃するため、このように複雑な罫を仕掛けたのである。

文化大革命の末期に全国に吹き荒れた「水滸伝批判」や「批林批孔」運動も同様である。後者は表向き、毛沢東に反逆した林彪と、封建主義を広めた孔子を批判する運動なのだが、真の標的は林彪の失

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

脚により勢力を増してきた周恩来(総理)であり、孔子批判のココロは、孔子が理想とした国「周」=周恩来であった。まるで寄席の大喜利の世界である。

こうした権謀術数は政治家だけの現象ではない。民間企業にも権力闘争は存在する。筆者の友人がむかし上海で日中合弁会社の副社長をしていた頃のこと、中国人社長が個人ルートで持ち込むいかかわしい案件を片っ端から却下していたら、遂に社長もぶち切れたらしく、経営会議の席で相手を日本人副社長とは名指しせず「春秋戦国時代に読書三昧の生活に明け暮れていた儒家たちは、当時の現実を全く理解していなかった」という主旨の当てこすり演説を一時間もぶったという。

「上に政策あれば、下に対策あり」というとおり、庶民もリスク感覚には敏感である。言いたいことはあるのだが、ストレートに批判すれば、どんなとぼっちりを受けるかわからない。だから中国では日本以上にジョークが活用されるのである。

北京オリンピックが成功裡に終わり、閉会式でIOC 会長が宣言した。

「北京五輪は史上最高の素晴らしい大会だった。IOC は次回も北京でオリンピックを開催することに決めました」

それを聞いた会場警備の警察官と軍人たちがぶっ倒れた。「これ以上不眠不休の警備は勘弁してくれ！」

次にボランティアの若者たちが倒れた。「これ以上ただ働きは勘弁してくれ！」

次は北京の商店街の店主たちが倒れた。「これ以上商売の邪魔をしないでくれ！」

最後に個人投資家たちが倒れた。「五輪当日に上海株が暴落するなんて、今回限りにしてくれ！」

最後まで立っていたのは胡錦濤主席だけだった

最近上海の個人投資家の間で流行っているジョークだ。株が下がって怒り心頭の投資家も多く、中国政府に文句の一つも言いたいようだが、幸い株価も戻りつつあり、またそもそも投資とは自己責任であり、政府批判は「寸止め」にしておこうということだろう。

下がってしまったものは仕方がない。あとは早期に経済を回復させることだ。そのためには、政府、企業、投資家が三位一体となって努力する必要がある。一番の良薬は自信の回復だ。一時の身の不運を笑い飛ばすくらいの元気が残っていれば回復も早いだろう。(了)

平成 21 年 5 月 7 日

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 121 号  
日本証券業協会 加入  
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

## ご投資にあたっての注意事項

### 手数料等およびリスクについて

株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2075% (税込み) (約定代金が 260,869 円以下の場合、3,150 円 (税込み)) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額)に対して最大 0.8400% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込(一部の投資信託は換金)手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0840% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.20% (税込み) (約定代金が 2,625 円に満たない場合は、2,625 円 (税込み)) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

### ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。